

令和4年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名	北海道	市町村類型	IV-1	指定団体等の指定状況		区分		令和4年度(千円)	令和3年度(千円)	区分		令和4年度(千円・%)	令和3年度(千円・%)	
				財政健全化等	×	職入総額	91,151,075			95,602,576	実質収支比率			4.8
市町村名	帯広市	地方交付税種地	1-5	財源超過	×	職入総額	89,097,684	93,255,674	実質収支比率	89.6	89.8	(90.6)	(91.5)	
				首都	×	職入歳出差引	2,053,391	2,346,902	(※1)					
				近畿	×	翌年度に繰越すべき財源	39,612	90,591	標準財政規模	42,285,624	42,961,860			
				中部	×	実質収支	2,013,779	2,256,311	財政力指数	0.60	0.60			
人口	令和2年国調(人)	166,536	産業構造(※5)		中部	×	単年度収支	-242,532	982,667	公債費負担比率	14.4	15.8		
	平成27年国調(人)	169,327			過疎	×	積立金	1,229,457	637,643	健全化判断比率				
	増減率(%)	-1.6			山振	×	繰上償還金	0	0	実質赤字比率	-	-		
住民基本台帳人口(※7)	令05.01.01(人)	164,014	区分	令和2年国調	平成27年国調	低開発	○	積立金取崩し額	0	0	連結実質赤字比率	-	-	
	うち日本人(人)	162,999	第1次	3,616	3,923	指数表選定	○	実質単年度収支	986,925	1,620,310	実質公債費比率	8.3	8.4	
	令04.01.01(人)	165,047		5.1	5.3	基準財政収入額	21,465,049	20,531,842	資金不足比率(※4)					
	うち日本人(人)	164,128	第2次	12,675	14,264	基準財政需要額	35,919,452	35,083,390						
	増減率(%)	-0.6		18.0	19.2	標準税収入額等	27,063,409	25,852,527						
	うち日本人(%)	-0.7	第3次	54,217	56,126	経常経費充当一般財源等	40,055,115	40,179,925						
	面積(km ²)	619.34		76.9	75.5	繰入一般財源等	51,904,311	50,928,962						
人口密度(人/km ²)	269													
世帯数(世帯)	80,175													
職員の状況(※8)														
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等(※6)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	73,378,583	78,330,258			
	市区町村長	1	10,050		一般職員	1,139	3,382,830	2,970	うちの公的資金	46,735,551	50,699,854			
	副市区町村長	2	8,050		うち消防職員	187	577,456	3,088	地方債現在高(臨時財政対策債除き)	46,890,923	49,826,766			
	教育長	1	6,930		うち技能労務職員	43	119,798	2,786	債務負担行為額(支出予定額)	30,166,288	32,180,002			
	議会議長	1	5,800		教育公務員	53	215,483	4,066	収益事業収入	15,520	24,526			
	議会副議長	1	5,100		臨時職員	-	-	-	土地開発基金現在高	-	-			
	議会議員	27	4,700		合計	1,192	3,598,313	3,019	財政調整基金	2,910,794	1,681,337			
					ラスバイレス指数				99.2	積立金現在高	756	755		
										減債基金	5,545,556	5,022,449		
										その他特定目的基金				
一般会計等の一覧		事業会計の一覧		公営企業(法適)の一覧		公営企業(法非適)の一覧		関係する一部事務組合等一覧		地方公社・第三セクター等一覧		(※3)		
項番	会計名	項番	会計名	項番	会計名	項番	会計名	項番	組合等名	項番	団体名			
(1)	一般会計	(3)	国民健康保険会計	(8)	水道事業会計			(10)	とかち広域消防事務組合	(13)	帯広市休日夜間急病対策協会			
(2)	中島公園事業会計	(4)	後期高齢者医療会計	(9)	下水道事業会計			(11)	十勝圏複合事務組合	(14)	帯広市文化スポーツ振興財団			
		(5)	介護保険会計					(12)	十勝中部広域水道企業団	(15)	帯広市農業振興公社			
		(6)	ばんえい競馬会計							(16)	帯広市土地開発公社			
		(7)	駐車場事業会計											

(注釈) ※1: 経常収支比率の()内の数値は、「繰上償還金(特例分)」「猶予特例債」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
 ※3: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
 ※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。
 ※6: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「1人あたり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。
 ※7: 人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※8: 職員の状況については、令和4年度地方公務員給与実態調査に基づいている。

(1) 普通会計の状況(市町村)

歳入の状況(単位 千円・%)					地方税の状況(単位 千円・%)				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分	
地方税	23,153,735	25.4	21,531,736	48.7	普通税	21,509,000	92.9	296,288	
地方譲与税	1,052,732	1.2	1,052,732	2.4	法定普通税	21,509,000	92.9	296,288	
利子割交付金	8,764	0.0	8,764	0.0	市町村民税	10,803,527	46.7	296,288	
配当割交付金	64,413	0.1	64,413	0.1	個人均等割	292,296	1.3	-	
株式等譲渡所得割交付金	52,185	0.1	52,185	0.1	所得割	8,827,774	38.1	-	
分離課税所得割交付金	-	-	-	-	法人均等割	576,279	2.5	-	
地方消費税交付金	4,601,242	5.0	4,601,242	10.4	法人税割	1,107,178	4.8	296,288	
ゴルフ場利用税交付金	-	-	-	-	固定資産税	8,549,433	36.9	-	
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	うち純固定資産税	8,498,955	36.7	-	
自動車取得税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	491,342	2.1	-	
軽油引取税交付金	-	-	-	-	市町村たばこ税	1,664,698	7.2	-	
自動車税環境性能割交付金	61,944	0.1	61,944	0.1	鉱産税	-	-	-	
法人事業税交付金	361,000	0.4	361,000	0.8	特別土地保有税	-	-	-	
地方特例交付金等	173,506	0.2	173,506	0.4	法定外普通税	-	-	-	
個人住民税減収補填特例交付金	164,536	0.2	164,536	0.4	目的税	1,644,735	7.1	-	
新型コロナウイルス感染症対策地方税減収補填特例交付金	8,970	0.0	8,970	0.0	法定目的税	1,644,735	7.1	-	
地方交付税	15,341,018	16.8	14,454,403	32.7	入湯税	22,736	0.1	-	
普通交付税	14,454,403	15.9	14,454,403	32.7	事業所税	-	-	-	
特別交付税	886,615	1.0	-	-	都市計画税	1,621,999	7.0	-	
震災復興特別交付税(一般財源計)	44,870,539	49.2	42,361,925	95.8	水利地益税等	-	-	-	
交通安全対策特別交付金	25,309	0.0	25,309	0.1	法定外目的税	-	-	-	
分担金・負担金	991,664	1.1	-	-	旧法による税	-	-	-	
使用料	1,107,422	1.2	85,080	0.2	合計	23,153,735	100.0	296,288	
手数料	475,205	0.5	-	-					
国庫支出金	20,423,795	22.4	-	-					
国有提供交付金(特別区財調交付金)	223,750	0.2	223,750	0.5					
都道府県支出金	6,103,750	6.7	-	-					
財産収入	60,985	0.1	2,332	0.0					
寄附金	1,507,733	1.7	-	-					
繰入金	240,618	0.3	-	-					
繰越金	2,346,902	2.6	-	-					
諸収入	9,969,903	10.9	1,497,928	3.4					
地方債	2,803,500	3.1	-	-					
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-					
うち臨時財政対策債	515,900	0.6	-	-					
歳入合計	91,151,075	100.0	44,196,324	100.0					

歳出の状況(単位 千円・%)				
区分	決算額(A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等
議会費	400,049	0.4	-	400,013
総務費	6,925,269	7.8	26,616	5,336,664
民生費	36,291,573	40.7	179,931	15,116,308
衛生費	6,069,876	6.8	201,292	4,333,644
労働費	118,085	0.1	-	106,947
農林水産業費	4,059,448	4.6	436,387	836,596
商工費	6,940,418	7.8	50,732	1,672,002
土木費	8,293,457	9.3	3,526,077	4,606,465
消防費	3,555,108	4.0	38,460	3,392,400
教育費	8,277,714	9.3	801,898	6,572,315
災害復旧費	-	-	-	-
公債費	8,166,687	9.2	-	7,477,566
諸支出金	-	-	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-
歳出合計	89,097,684	100.0	5,261,393	49,850,920

性別別歳出の状況(単位 千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	45,662,455	51.2	25,366,413	24,484,882	54.8
人件費	11,265,489	12.6	10,718,782	10,428,259	23.3
うち職員給	6,858,017	7.7	6,534,696	-	-
扶助費	26,230,279	29.4	7,170,065	6,579,057	14.7
公債費	8,166,687	9.2	7,477,566	7,477,566	16.7
元利償還金	8,160,399	9.2	7,471,278	7,471,278	16.7
うち元金	7,755,175	8.7	7,072,652	7,072,652	15.8
うち利子	405,224	0.5	398,626	398,626	0.9
一時借入金利子	6,288	0.0	6,288	6,288	0.0
その他の経費	38,173,836	42.8	23,366,728	15,570,233	34.8
物件費	11,402,419	12.8	7,401,980	5,905,539	13.2
維持補修費	1,470,869	1.7	1,338,004	1,338,004	3.0
補助費等	10,577,350	11.9	9,672,841	5,500,460	12.3
うち一部事務組合負担金	4,888,865	5.5	4,777,537	4,178,317	9.3
繰出金	4,872,031	5.5	3,455,090	2,826,230	6.3
積立金	1,957,992	2.2	1,270,273	-	-
投資・出資金・貸付金	7,893,175	8.9	228,540	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	5,261,393	5.9	1,117,779	-	-
うち人件費	117,008	0.1	117,008	-	-
普通建設事業費	5,261,393	5.9	1,117,779	-	-
うち補助	3,058,442	3.4	89,930	-	-
うち単独	1,988,462	2.2	948,004	-	-
災害復旧事業費	-	-	-	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	89,097,684	100.0	49,850,920	-	-

区分	令和4年度	令和3年度
合計	99.2	97.7
市町村民税	98.8	97.2
純固定資産税	99.4	97.9

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	6,792,193	実質収支	118,548
下水道	1,373,819	再差引収支	-158,530
上水道	546,343	加入世帯数(世帯)	21,159
工業用水道	-	被保険者数(人)	31,133
交通	-	被保険者	96
国民健康保険	1,721,382	1人当り	96
その他	3,150,649	保険給付費	344

(注釈)
 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
 単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率(市町村)

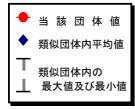
令和4年度 北海道帯広市

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	91,631	89,577	2,053	2,014	241	73,121	
2 中島公園事業会計	48	48	-	-	42	257	
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							
291							
292							
293							
294							
295							
296							
297							

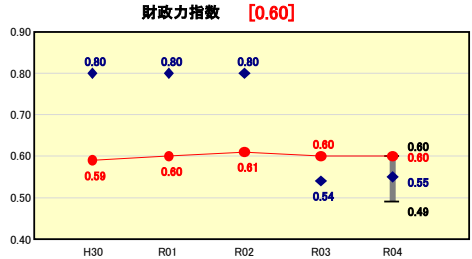
(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

人口	164,014人 (R5.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	162,999人 (R5.1.1現在)	連結実質赤字比率	- %
面積	619.34 km ²	実質公債費比率	8.3 %
歳入総額	91,151,075千円	将来負担比率	38.0 %
歳出総額	89,097,684千円	市町村類型	H30 IV-1 R01 IV-1 R02 IV-1
実質収支	2,013,779千円	(年度毎)	R03 IV-1 R04 IV-1
標準財政規模	42,285,624千円		
地方債現在高	73,378,583千円		



※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
 ※「定員管理の状況」の「人口1,000人当たり職員数」の算出に用いる職員数及び「給与水準(国との比較)」「ラスパイレース指数」については、各調査対象年度の地方公務員給与実態調査に基づいている。

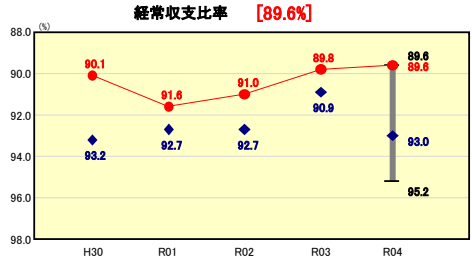
財政力



財政力指数の分析欄

令和4年度については、基準財政収入額及び基準財政需要額がともに増加した結果、前年度と同値となった。類似団体との比較では、平均を0.05ポイント上回っている。今後も、収納率を高める取り組みや、産業振興などにより収税の確保を図りながら財政力の強化に努めていく。

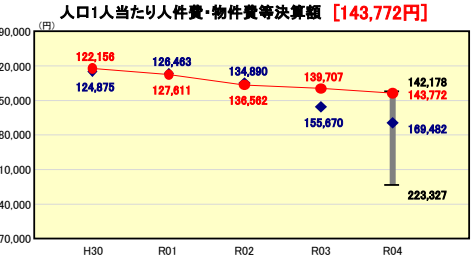
財政構造の弾力性



経常収支比率の分析欄

令和4年度は市税の増加や公債費の減少などにより、前年度対比で0.2ポイント改善し、類似団体平均よりも3.4ポイント低い比率となった。今後も行財政運営改革の取り組み等を通じ、市税収入の確保や、業務の効率化を図るなどして、健全な財政運営に努めていく。

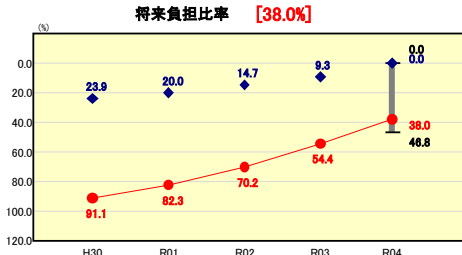
人件費・物件費等の状況



人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄

令和2年度の会計年度任用職員制度の導入や物価高騰の影響などにより、前年度対比で増加しているものの、類似団体平均は下回っている。今後も、職員の定員管理・給与の適正化などにより引き続き抑制に努めながら、公共施設の管理・運営など、民間でも実施可能な部分については指定管理者制度の導入拡大の検討を進め、効果的な運用を図っていく。

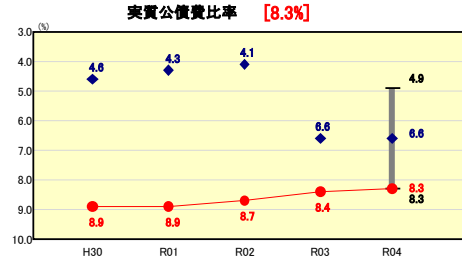
将来負担の状況



将来負担比率の分析欄

令和4年度は前年度対比で16.4ポイントの改善となった。類似団体に比べて比率が高い状態が続いているが、これは過去に公共施設の整備等、積極的な投資を行ったことにより市債残高が大きくなっており、近年は計画的な市債発行により市債残高は減少傾向にある。今後も計画的な市債発行に努め、健全な財政運営を行っていく。

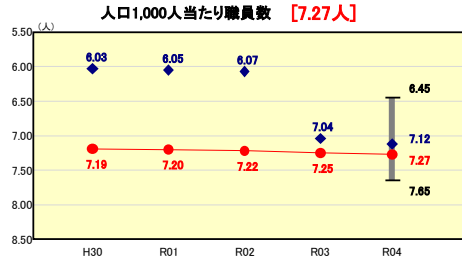
公債費負担の状況



実質公債費比率の分析欄

計画的な市債借入による元利償還額の減少等により、令和4年度の実質公債費比率は前年度対比で0.1ポイントの改善となったが、類似団体と比較すると依然高い値を示しているため、今後も計画的な市債発行に努め、健全な財政運営を行っていく。

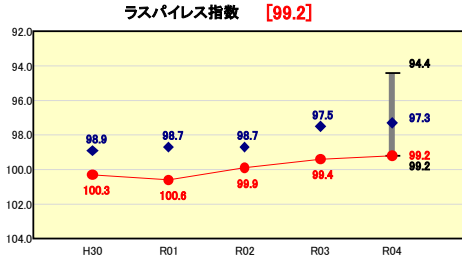
定員管理の状況



人口1,000人当たり職員数の分析欄

令和4年度は前年対比で0.02ポイント上昇したが、全国平均及び北海道平均の上昇幅より低い水準に留まっている。今後も、持続可能なまちづくりに向け、事業の見直しや効率化を図りながら、適正な定員管理に努めていく。

給与水準(国との比較)



ラスパイレース指数の分析欄

類似団体平均に比べ1.9ポイント高い、99.2となっており、前年度の99.4と比べ0.2ポイント減少している。主な変動要因としては、高給者の退職のほか、組織再編に伴う、ポスト数の減少や経験年数階層変動が挙げられる。今後も人件費全体の抑制に努めていく。

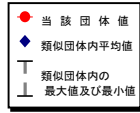
(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和4年度

北海道帯広市

経常収支比率の分析

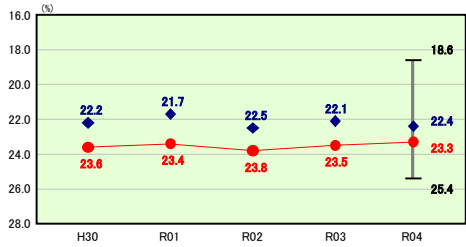
人口	164,014	人(R5.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	162,999	人(R5.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	619.34	km ²	実質公債費比率	8.3	%
歳入総額	91,151,075	千円	将来負担比率	38.0	%
歳出総額	89,097,684	千円	市町村類型	H30 IV-1 R01 IV-1 R02 IV-1	
実質収支	2,013,779	千円	(年度毎)	R03 IV-1 R04 IV-1	
標準財政規模	42,285,624	千円			
地方債現在高	73,378,583	千円			



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

人件費

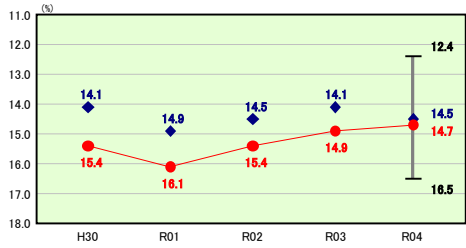
類似団体内順位 2/3 全国平均 25.9 北海道平均 23.1



人件費の分析欄
 令和2年度の会計年度任用職員制度導入により、経常経費充当一般財源等は増加傾向にあったが、令和4年度は市税の増加などに加え、一般職給与等の減などにより、前年度対比で0.2ポイント低下した。
 類似団体の平均と比較して依然高い値にあり、今後も職員の定員管理・給与の適正化などにより、人件費全体の抑制に努めていく。

扶助費

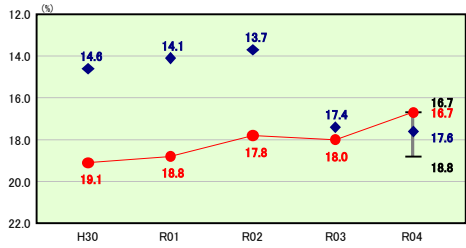
類似団体内順位 2/3 全国平均 12.5 北海道平均 11.3



扶助費の分析欄
 令和4年度は、市税の増加などに加え、生活保護費の減などにより、前年度対比で0.2ポイント低下したものの、類似団体の平均を上回っており、今後も生活保護者の自立支援プログラムの推進などを通じて改善に努めていく。

公債費

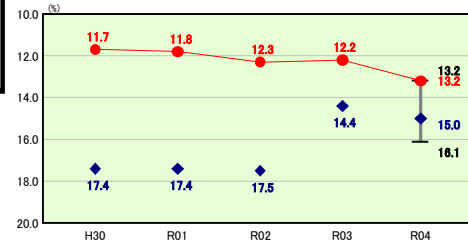
類似団体内順位 1/3 全国平均 16.0 北海道平均 17.8



公債費の分析欄
 元利償還額の減少により、令和4年度は前年度対比1.3ポイント低下し、類似団体平均を下回った。今後も景気の動向や世代間の負担平準化を考慮しながら、市債の計画的な発行に努めていく。

物件費

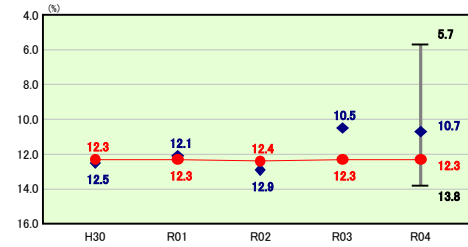
類似団体内順位 1/3 全国平均 14.9 北海道平均 13.8



物件費の分析欄
 燃料費や光熱水費などの施設管理に係る費用が物価高騰の影響で増加したことにより、前年度対比で1.0ポイント上昇した。
 類似団体平均と比較すると低い値で推移しているが、これは民間事業者への委託料が少ないためであり、今後も民間で実施できる事業等について、検討を進めていく。

補助費等

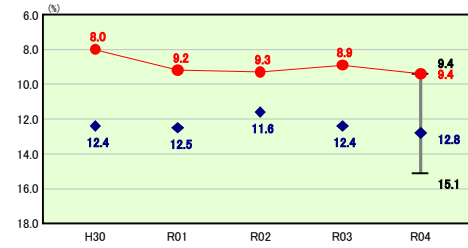
類似団体内順位 2/3 全国平均 10.5 北海道平均 10.8



補助費等の分析欄
 広域消防事務組合分担金の増やごみ処理施設管理運営費分担金の減などにより、前年度と同水準で推移している。
 類似団体と比べて一部事務組合に対する補助費等が大きいため、類似団体平均より高い値となった。

その他

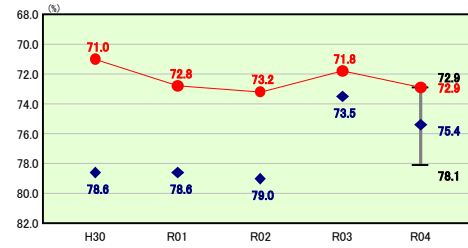
類似団体内順位 1/3 全国平均 12.4 北海道平均 14.4



その他の分析欄
 令和4年度は除雪費の増などにより、前年度対比で0.5ポイント上昇しているが、他会計への繰出金が他の類似団体に比べて少ないことから、類似団体の平均と比べて低い値で推移している。

公債費以外

類似団体内順位 1/3 全国平均 76.2 北海道平均 73.4



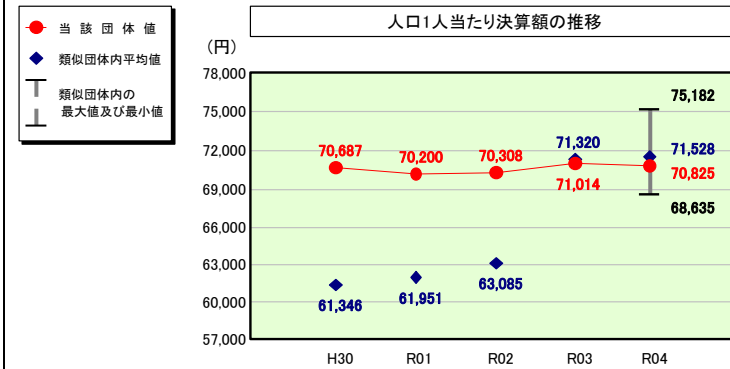
公債費以外の分析欄
 令和4年度の公債費以外の経常収支比率については、前年度対比で1.1ポイント上昇しているが、類似団体と比較して依然低い状況で推移している。
 今後も行財政改革の取り組み等を通じ、市税収入の確保や業務の効率化を図るなどして健全な財政運営に努めていく。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和4年度

北海道帯広市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

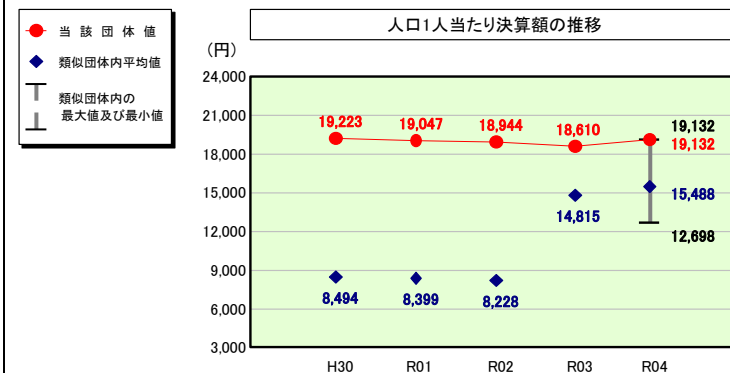
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
人件費	11,265,489	68,686	67,418	1.9
一部事務組合負担金(補助費等)	471,996	2,878	4,364	▲ 34.1
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	39,362	240	244	▲ 1.6
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	-	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	397,570	2,424	2,903	▲ 16.5
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	117,008	713	1,051	▲ 32.2
▲退職金	▲ 675,201	▲ 4,117	▲ 4,452	▲ 7.5
合計	11,616,224	70,825	71,528	▲ 1.0

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	7.27	7.12	0.15
ラスバイレス指数	99.2	97.3	1.9

(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

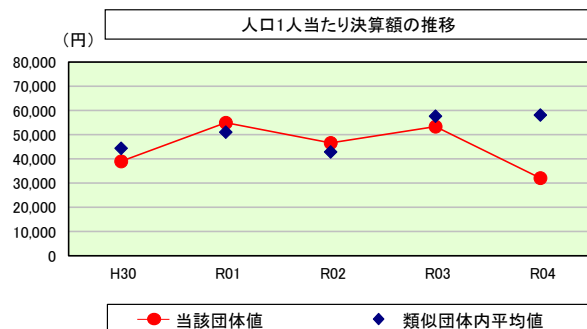


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	8,160,390	49,754	49,163	1.2
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	-	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	1,003,575	6,119	7,104	▲ 13.9
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	251,281	1,532	1,181	29.7
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	648,487	3,954	1,435	175.5
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	9	0	0	0.0
▲特定財源の額	▲ 2,281,291	▲ 13,909	▲ 8,165	70.3
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 4,644,566	▲ 28,318	▲ 35,230	▲ 19.6
合計	3,137,885	19,132	15,488	23.5

※令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

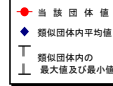
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H30	6,510,569	39,011	▲ 2.9	44,366	▲ 18.2	15.3
うち単独分	1,507,978	9,036	▲ 1.9	23,234	▲ 10.8	8.9
R01	9,126,301	54,963	40.9	51,043	15.0	25.9
うち単独分	1,814,245	10,926	20.9	23,378	0.6	20.3
R02	7,726,293	46,637	▲ 15.1	42,898	▲ 16.0	0.9
うち単独分	2,176,660	13,139	20.3	21,022	▲ 10.1	30.4
R03	8,810,466	53,382	14.5	57,604	▲ 34.3	▲ 19.8
うち単独分	3,042,033	18,431	40.3	25,635	21.9	18.4
R04	5,261,393	32,079	▲ 39.9	58,103	0.9	▲ 40.8
うち単独分	1,988,462	12,124	▲ 34.2	25,241	▲ 1.5	▲ 32.7
過去5年間平均	7,487,004	45,214	▲ 0.5	50,803	3.2	▲ 3.7
うち単独分	2,105,876	12,731	9.1	23,702	0.0	9.1

(5)市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

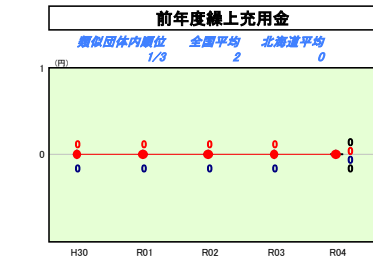
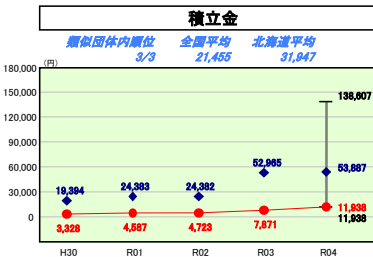
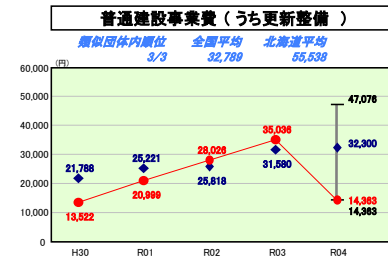
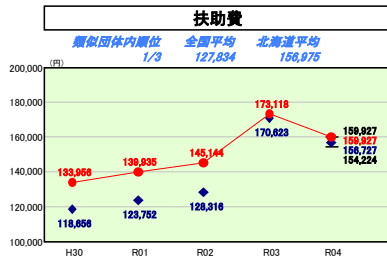
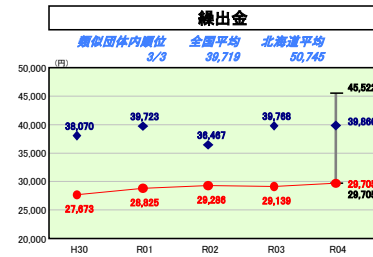
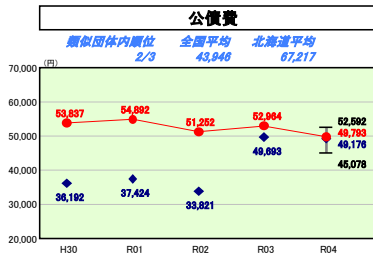
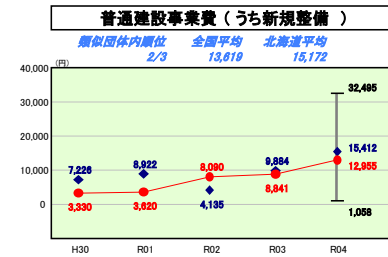
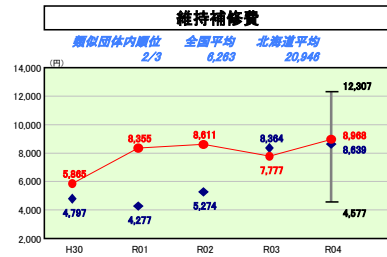
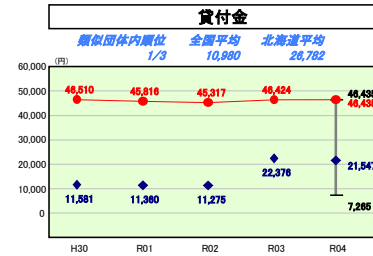
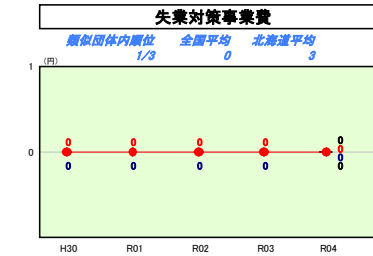
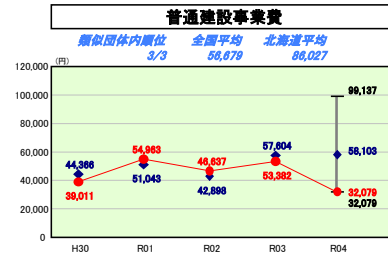
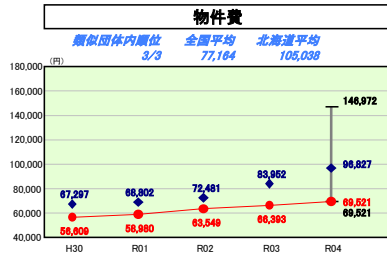
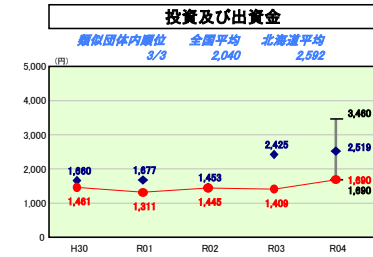
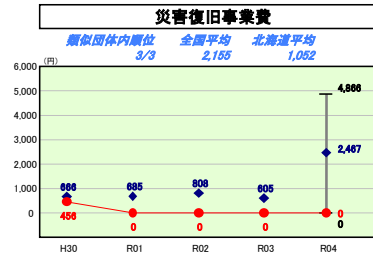
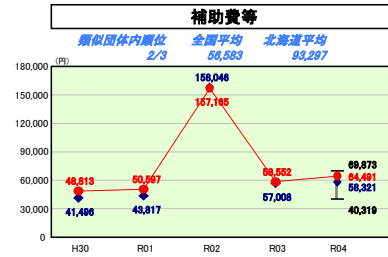
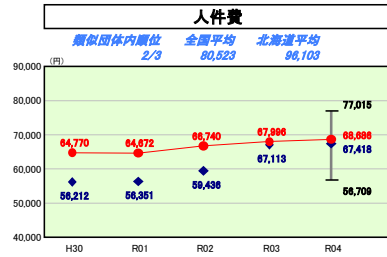
令和4年度

北海道帯広市

人口	164,014人(R5.1.1現在)	実質赤字比率	-	96
うち日本人	162,999人(R5.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	96
面積	619.34km ²	実質公債費比率	8.3	96
歳入総額	91,151,075千円	将来負担比率	38.0	96
歳出総額	99,097,684千円	市町村類型	H30 IV-1 R01 IV-1 R02 IV-1	
実質収支	2,013,779千円	(年度毎)	R03 IV-1 R04 IV-1	
標準財政規模	42,285,624千円			
地方債現在高	73,378,583千円			



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



性質別歳出の分析

扶助費については、令和4年度は、物価高騰対策として住民税非課税世帯に対する給付金を支給したが、新型コロナウイルス感染症対策として実施した給付金事業の支給額が前年度対比で減少したことなどにより、減少している。
 補助費等については、令和2年度が、新型コロナウイルス感染症対策として特別定額給付金を支給したことなどにより、大幅に増加していた。
 普通建設事業費については、大空地区義務教育学校整備費や市街地再開発事業費の減などにより、減少している。
 貸付金が類似団体と比較して大きくなっている要因としては、中小企業の円滑な資金繰りの支援を目的とした中小企業振興融資貸付金や農林業育成資金貸付金などを設けているためである。

(6)市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

令和4年度

北海道帯広市

人口	164,014人(R5.1.1現在)	実質赤字比率	-%	96
うち日本人	162,999人(R5.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%	96
面積	619.34km ²	実質公債費比率	8.3%	96
歳入総額	91,151,075千円	将来負担比率	38.0%	96
歳出総額	99,097,684千円	市町村類型	H30 IV-1 R01 IV-1 R02 IV-1	
実質収支	2,013,779千円	(年度毎)	R03 IV-1 R04 IV-1	
標準財政規模	42,285,624千円			
地方債現在高	73,378,583千円			

● 当該団体値
◆ 類似団体内平均値
┌ 類似団体内の最大値及び最小値

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



目的別歳出の分析

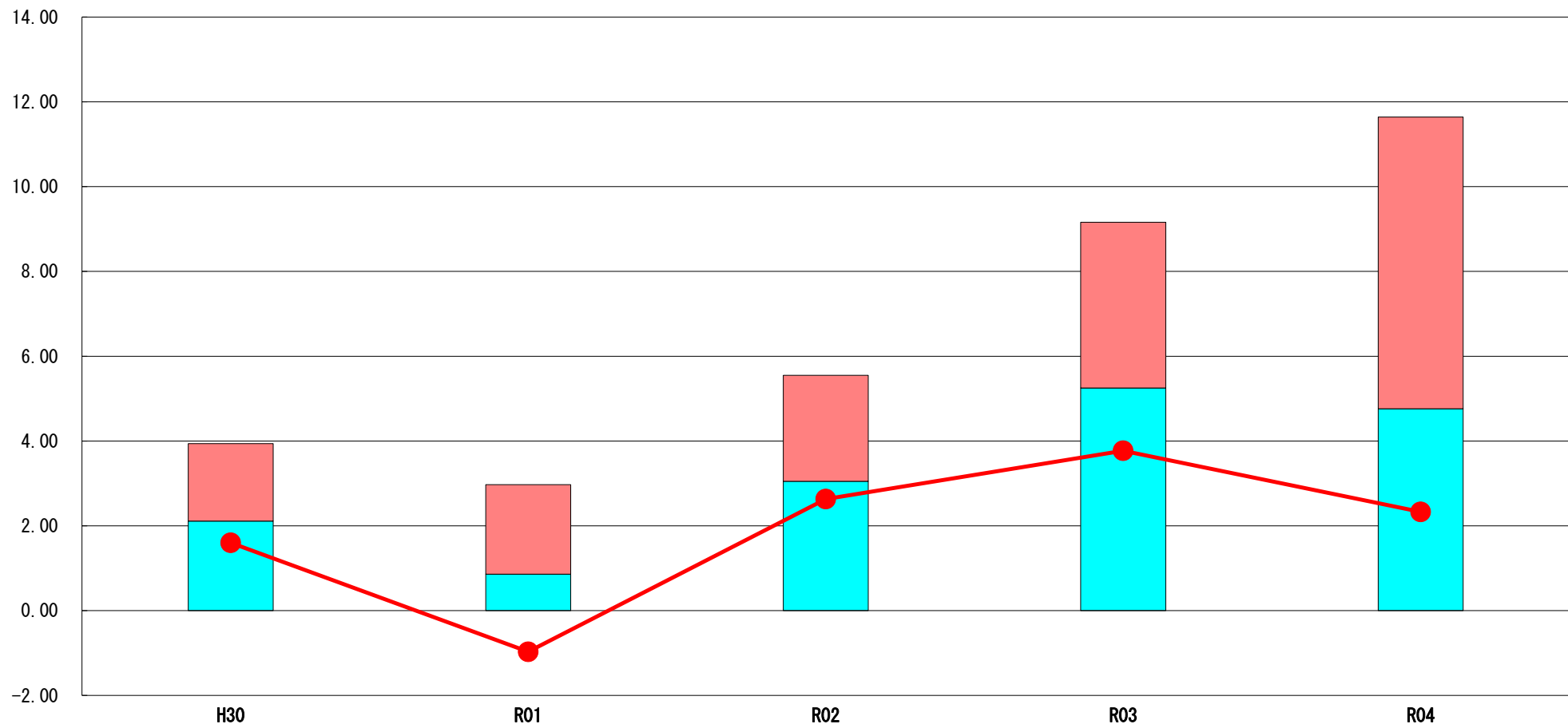
総務費については、令和2年度が、新型コロナウイルス感染症対策として特別定額給付金を支給したことなどにより、大幅に増加していた。
 民生費については、令和4年度は、物価高騰対策として住民税非課税世帯に対する給付金を支給したが、新型コロナウイルス感染症対策として実施した給付金事業の支給額が前年度対比で減少したなどにより、減少している。
 消防費については、平成26年度から平成27年度にかけて広域化し、平成28年度からは消防に係る人件費等相当分をとかち広域消防局への分担金として支出しているため、類似団体と比較して高い状況にある。
 教育費については、大空地区義務学校校整備費の減などに伴い減少している。
 災害復旧費については、平成28年度の台風で被災した公共施設などの復旧が、平成30年度で完了した。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）




令和4年度

北海道帯広市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

区分	年度	H30	R01	R02	R03	R04
 財政調整基金残高		1.83	2.11	2.50	3.91	6.88
 実質収支額		2.11	0.86	3.05	5.25	4.76
 実質単年度収支		1.60	▲ 0.97	2.63	3.77	2.33

分析欄

令和4年度の財政調整基金については、令和3年度決算剰余金などから12億2,900万円を積み立てたことにより、標準財政規模に対する基金残高の割合は、2.97ポイントの改善となった。

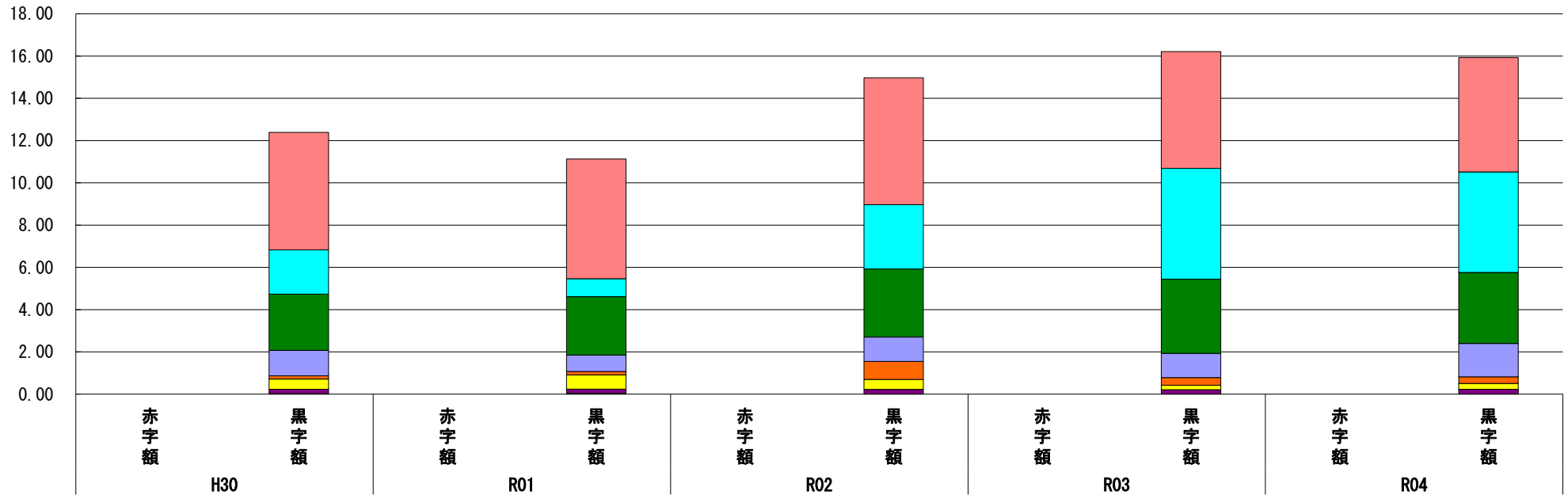
標準財政規模に対する実質収支額については、物件費や補助費等の増などにより0.49ポイント悪化したほか、実質単年度収支についても、1.44ポイントの悪化となった。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

令和4年度

北海道帯広市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

会計	年度	H30	R01	R02	R03	R04
水道事業会計		5.56	5.67	6.00	5.52	5.41
一般会計		2.10	0.85	3.05	5.25	4.76
下水道事業会計		2.66	2.76	3.22	3.51	3.36
介護保険会計		1.20	0.78	1.15	1.15	1.58
ばんえい競馬会計		0.16	0.16	0.85	0.36	0.31
国民健康保険会計		0.48	0.67	0.48	0.21	0.28
後期高齢者医療会計		0.21	0.21	0.22	0.21	0.23
駐車場事業会計		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.02	0.03	0.00	0.00	0.00

分析欄

すべての会計において、黒字となっている。今後も収納率の向上に向けた取り組みにより市税収入を確保していくほか、行政サービスの見直しや効率化を図り、健全な財政運営に努めていく。

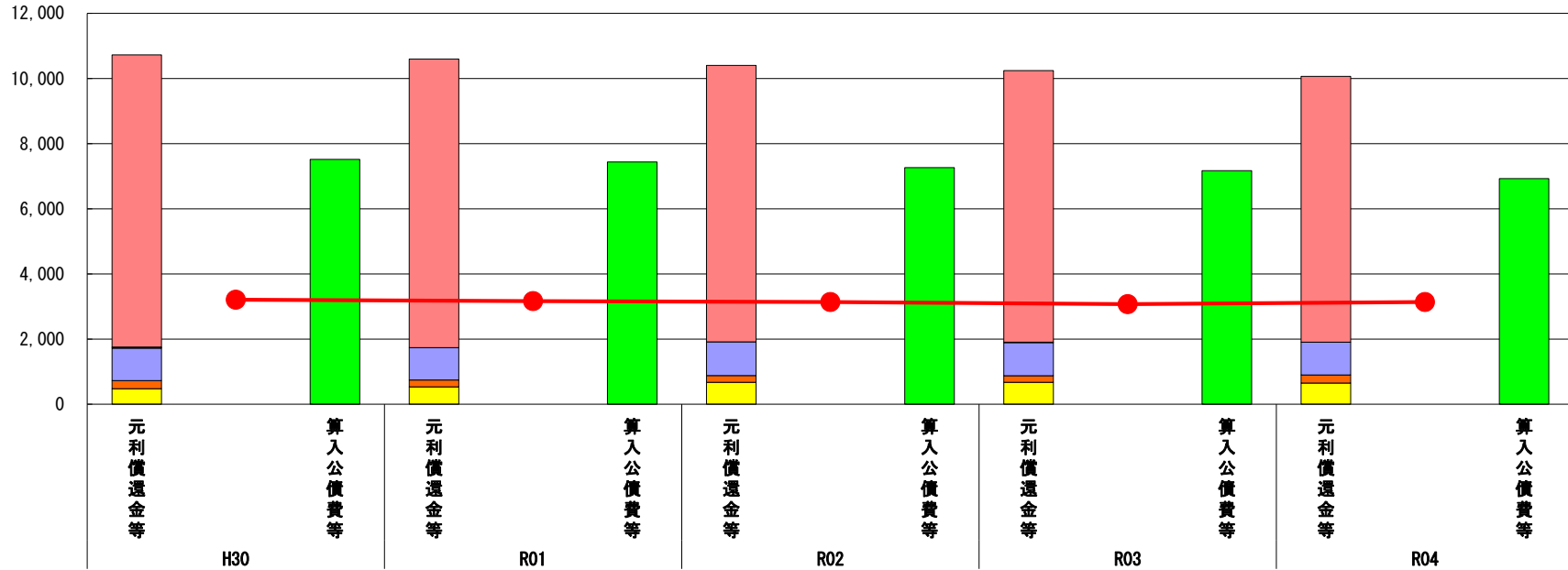
※令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

令和4年度

北海道帯広市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H30	R01	R02	R03	R04
元利償還金等 (A)	元利償還金		8,970	8,862	8,487	8,335	8,160
	減債基金積立不足算定額※2		26	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		7	-	-	13	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		1,000	991	1,034	1,018	1,004
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		246	214	205	200	251
	債務負担行為に基づく支出額		476	531	674	674	648
	一時借入金の利子		0	0	0	-	0
算入公債費等 (B)	算入公債費等		7,517	7,435	7,263	7,168	6,925
(A) - (B)	● 実質公債費比率の分子		3,208	3,163	3,137	3,072	3,138

分析欄

令和4年度決算に基づく実質公債費比率は8.3%となっており、令和3年度決算の8.4%より0.1ポイント改善した。

地方債の計画的な発行による元利償還金の減少が改善の要因であり、今後も元利償還金の減少に伴い、改善していく見込みである。

※1 令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出してない団体については、グラフを表記しない。

※2 減債基金積立不足算定額=(C) × (1 - (D)/(E))

(参考)

(百万円)

減債基金積立状況等 (注)		年度	H30	R01	R02	R03	R04
減債基金積立状況等 (注)	満期一括償還地方債に係る実質償還額又は理論償還額のいずれか少ない額 (C)						
	前年度末減債基金残高 (D)						
	前年度末減債基金積立相当額 (E)						

分析欄

平成26年度以降、減債基金を償還財源とする地方債を発行しておらず、償還も終了している。

(注) 減債基金のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源に係るもののみを記入。

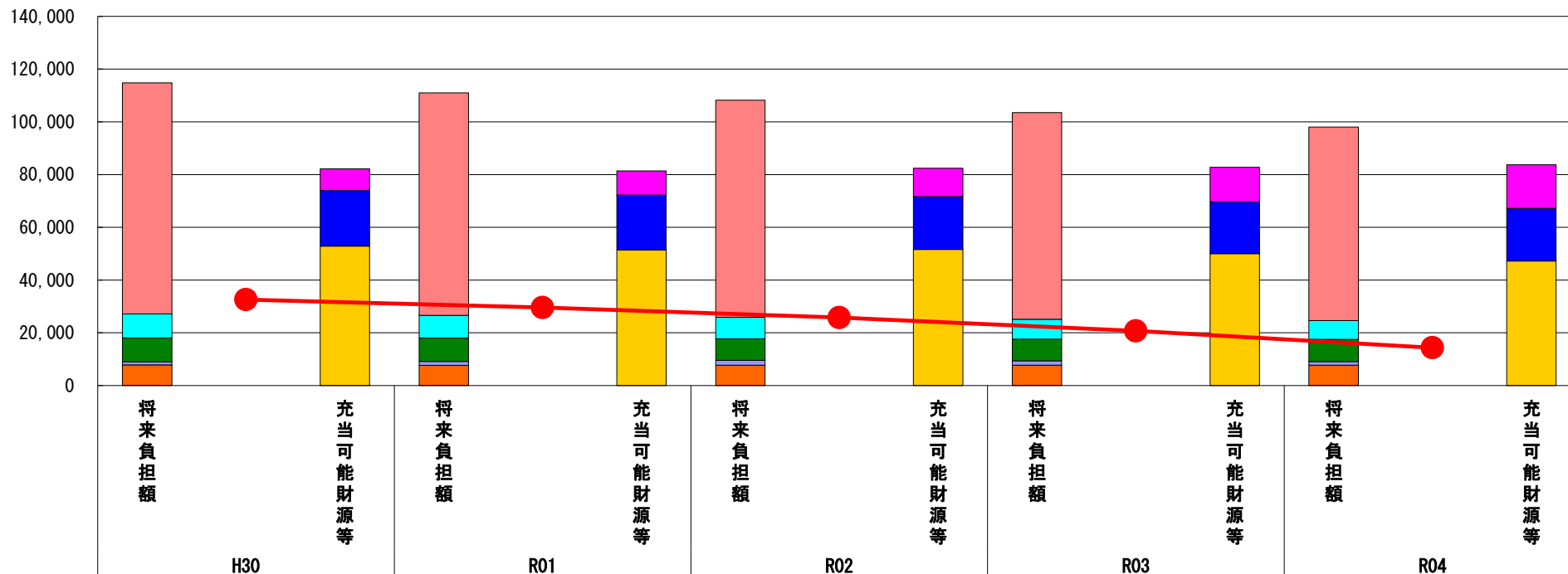
減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

令和4年度

北海道帯広市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H30	R01	R02	R03	R04
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		87,634	84,332	82,305	78,330	73,379
	債務負担行為に基づく支出予定額		9,106	8,654	8,152	7,545	7,138
	公営企業債等繰入見込額		8,991	8,838	8,186	8,241	8,435
	組合等負担等見込額		1,204	1,465	1,819	1,638	1,394
	退職手当負担見込額		7,848	7,673	7,720	7,730	7,703
	設立法人等の負債額等負担見込額		-	-	-	-	-
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
	充当可能財源等 (B)	充当可能基金		8,251	9,135	10,750	13,052
充当可能特定歳入			21,085	20,879	20,011	19,652	19,948
基準財政需要額算入見込額			52,858	51,377	51,641	50,055	47,265
(A) - (B)	将来負担比率の分子		32,590	29,571	25,780	20,724	14,338

分析欄

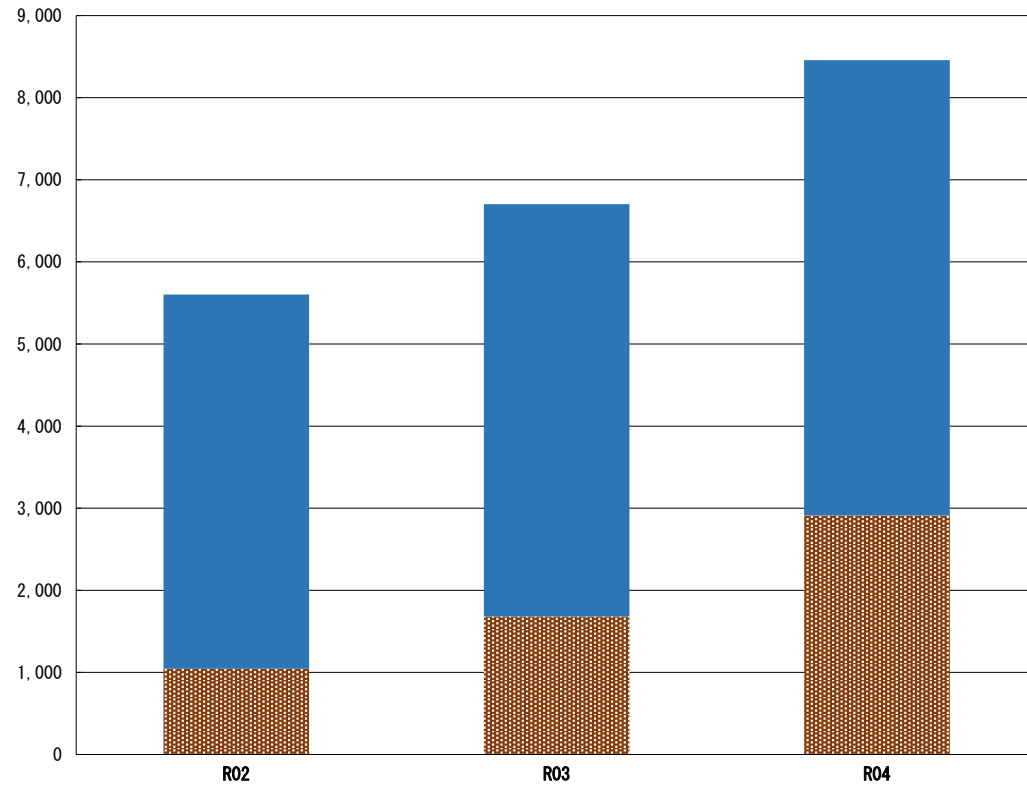
令和4年度決算に基づく将来負担比率は、地方債残高をはじめとした将来負担額の減少により38.0%となっており、令和3年度決算の54.4%に比べて16.4ポイント改善した。

今後も将来負担額が累増することのないよう健全な財政運営に努めていく。




※令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）

(百万円)



(百万円)

区分	年度	R02	R03	R04
 財政調整基金		1,044	1,681	2,911
 減債基金		1	1	1
 その他特定目的基金		4,557	5,022	5,546
高等教育整備基金		3,062	3,064	3,065
商工観光振興基金		690	671	616
おびひろ動物園ゆめ基金		39	238	527
都市開発基金		263	226	223
こども学校応援地域基金		36	92	163
基金残高合計		5,601	6,705	8,457

令和4年度

北海道帯広市

基金全体

(増減理由)
 財政調整基金への前年度決算剰余金などからの積立額は5億9,200万円増加し、帯広市動物園の動物展示施設等の整備などに充てることを目的としたおびひろ動物園ゆめ基金をはじめとした特定目的基金への多額の寄附があったことなどにより、積立総額は前年度対比で6億5,900万円増加した。加えて、財政調整基金の取崩しが多かったことなどにより、基金全体としては前年度対比で17億5,300万円のプラスとなった。

(今後の方針)
 各基金条例で定めている設置目的に沿って、積立て及び取崩しを行っていく。

財政調整基金

(増減理由)
 令和3年度決算剰余金などから12億2,900万円を積み立てたことに加え、取崩しが多かったことにより、前年度対比で12億2,900万円の増加となった。

(今後の方針)
 財政調整基金については、経済事情の変動や災害による財源不足、大規模な建設事業等に対する備えとなるものであることから、今後も決算剰余金等の積立を行いながら、残高の維持・確保に努めていく。

減債基金

(増減理由)
 繰替運用による利子の積立てを行っているものの、基金残高が約76万円と少額であるため、大きな変動はない。

(今後の方針)
 減債基金は市債の償還財源とするために積み立てるものであるが、今のところ積立てや取崩しの予定はない。

その他特定目的基金

(基金の使途)
 令和4年度末現在で積立額が多い上位5基金について記載。
 ・高等教育整備基金：大学など高等教育機関の整備
 ・商工観光振興基金：商工業及び観光事業の振興
 ・おびひろ動物園ゆめ基金：帯広市動物園の動物展示施設等の整備及び動物の購入
 ・都市開発基金：公共施設整備など都市開発事業の推進
 ・こども学校応援地域基金：地域ぐるみで子供を応援する取組の推進

(増減理由)
 帯広市動物園の動物展示施設等の整備などに充てるおびひろ動物園ゆめ基金を中心に、各基金へ多額の寄附があったことなどにより、その他特定目的基金全体として前年度対比で5億2,300万円の増加となった。

(今後の方針)
 各基金条例に定めている設置目的に沿って、積立て及び取崩しを行っていく。